

国連薬物・犯罪事務所主催サイドイベント

宇都外務副大臣ステートメント

令和3年3月8日

- ワーリー国連薬物・犯罪事務所（UNODC）事務局長、御参加の皆様、こんにちは。
- 日本国外務副大臣の宇都隆史です。本日は、UNODCが「国際女性デー」に際して開催する京都 kongress のサイドイベントにおいて、外務省を代表しメッセージを寄せることができ光栄です。
- 新型コロナウイルスの女性・女児に対する影響は甚大です。DVや性暴力が増大し、また、経済的な困窮により女性・女児が人身取引を始めとする様々な犯罪に一層巻き込まれやすくなっているとされています。
- また、新型コロナウイルスの流行により、人々が過激な主義主張に感化されやすくなっているとの指摘もなされています。アジアにおいても、テロ組織が、インターネットを通じてテロ行為を扇動するといった事象も確認されており、テロ組織にリクルートや活動の機会を与えていると懸念しています。
- このような状況下で、女性のエンパワーメントはますます喫緊の課題となっています。昨年9月、日本政府とUNODCは、テロや暴力的過激主義対策で協力するとともに、女性のエンパワーメントでも協力することを改めて確認しました。また、アフガニスタンの女性の生計支援やインドネシアの女性の社会再統合への支援等をUNODCを通じて実施することで、地域の女性たちのエンパワーメント、ひいては、地域全体の安定化にも貢献しています。
- 我々人類は、危機を好機に変えることもできます。グテーレス国連事務総長が昨年4月、「女性と女児をコロナ対応の中心に」と呼びかけられました。日本政府は、人間一人一人の生存や尊厳が守られるべきとの「人間の安全保障」の理念を踏まえ、女性を含む「誰ひとり取り残されない、より良い社会作り」に向け、引き続きUNODCと協力していきます。
- ご清聴ありがとうございました。

(了)